

太平洋は広いーオガサワラヒメミズナギドリ(仮称)は何処にいる？

○川上和人(森林総研), 鈴木創, 堀越和夫, 千葉勇人(小笠原自然文化研), 江田真毅(北大), 平岡考(山階鳥研)

Bryan's Shearwater *Puffinus bryani* (仮称:オガサワラヒメミズナギドリ)は、1963年にミッドウェイ諸島で見つかった標本に基づき、2011年に新種として記載された小型のミズナギドリである。本種は、その後1990年代初頭にミッドウェイ諸島で見つかった以外に観察例がなく、絶滅の可能性も懸念されていた。一方、小笠原諸島では1997年以降に種不明の小型ミズナギドリの標本が6個体見つかり、DNAを分析した結果、小笠原標本の全てがオガサワラヒメミズナギドリであることが明らかになった。

小笠原での最新の標本が2011年産だったことから、本種は現在も生残していると考えられる。国外ではミッドウェイでの2例しか記録がないことから、比較的記録の多い小笠原が主要な生息域である可能性が高い。しかし、記録数は限られており、個体数は非常に少ないと考えられる。このため、本種の保全を積極的に行う必要があるが、その分布についてはほとんど情報がない。

このような背景から、分布を推定するため、観察記録を収集し写真から種の判定を行った。その結果、小笠原航路において本種と考えられる個体が観察されていることが明らかになった。過去に標本が発見された季節から、本種は冬繁殖と考えられるが、小笠原航路では夏に観察されていた。このことから、繁殖期以外でも小笠原周辺を利用している可能性がある。

次に、母島の森林地帯にある鍾乳洞において発掘されたミズナギドリ類の骨を精査し、本種の骨の探索を行った。上腕骨の破片(355点、最小個体数134個体分)を対象に分析したところ、オガサワラヒメミズナギドリと形態的特徴が類似した骨が3点(最小個体数2個体分)認められた。これらの骨の発見場所は森林内であり、同時に発見されたミズナギドリ類は森林を繁殖に利用する種であったことから、オガサワラヒメミズナギドリも森林内で繁殖している可能性がある。

小笠原では、本種の保全を目的に繁殖地の探索を行っている。今後は、繁殖地を特定した上で、侵略的外来種の駆除を中心に生息地管理を行い、早急に保全を推進する必要がある。